



当社の総合リサイクルセンター

- 本社所在地：神奈川県愛甲郡愛川町
- 事業概要：
 - 一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬および処分、リサイクル事業（生ごみ堆肥化、廃プラスチック擬木化等）
- 常時使用する従業員：120名
(2024年9月時点)
- 現在の売上高：14億円
(2024年9月期)
- 法人番号：5021001023685
- Web：https://act-ea.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
富岡 康則

地球環境を守り、次世代へつなぐ

廃棄物処理から持続可能な社会をつくることを使命とし、“処理困難プラスチックも燃やさずリサイクル”という独自技術で循環型社会に貢献してきました。神奈川県愛川町の民間最大級183t/日処理の総合リサイクルセンターでは、食品廃棄物を堆肥化して農業法人「なな色の郷」で活用し、廃プラスチックは擬木化して公共資材へと再利用。100%に近いリサイクルループを実現し、地域社会と共に歩んでいます。これからも社員・顧客・地域の皆様と協働し、信頼と責任を大切にしながら、売上高100億円を目指す成長と持続可能な未来の実現に挑戦してまいります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

< 2035年9月期に売上高100億円を達成 >
 「循環型社会の実現と環境負荷低減」を最優先に掲げ、現有する総合リサイクルセンターを基盤に、既存事業の安定成長と新規事業の拡大を組み合わせ、飛躍的に売上を拡大し、2035年9月期に100億円を実現する。また、雇用の維持・拡大、多様な働き方の導入、地域住民との信頼関係を重視し、持続可能な社会の一翼を担っていく。

課題

- ・人材確保：人手不足解消のため、自動化と働きやすい環境整備が必要。
- ・M&Aリスク：統合後のオペレーションや人材定着に課題がある。
- ・新規市場：製鋼副資材・建設廃棄物・バイオマス燃料は販路確立と差別化が必要。
- ・競争環境：安価な焼却処理との競争下で、環境価値とコスト優位性を訴求する必要がある

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・ケミカルリサイクル：廃プラスチックを全量資源化し、製鋼副資材として販売する。加えて自社処理施設を新たに2拠点建設し、処理能力を大幅に増強する。
- ・M&A：東京23区外や神奈川県工エリアの産廃系収集運搬会社を10社程度M&Aし、広域収集体制を確立する。
- ・建設廃棄物処理：混合廃棄物処理に対応し、再資源化製品の市場を開拓する。
- ・バイオマス燃料：廃油を原料としたバイオマス燃料製造を開始し、再生可能エネルギー事業へ進出する。

実施体制

- ・専門人材の採用と育成：ケミカルリサイクルや建設廃棄物処理、バイオマス燃料分野に精通した技術者・営業人材を新規採用し、既存社員には自動化設備対応や新規事業研修を実施する。
- ・M&A統合チームの編成：財務・法務・人事の専門家を含むM&A統合チームを設置し、買収企業の業務プロセスや人材定着を円滑に進める。
- ・顧客基盤活用と既存事業部門の強化：既存の約350社の顧客基盤を活かし、既存事業の安定収益を支えながら、新規事業部門との連携を図る。

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです